海の生き物イメージ

アートづくり

海ごみがアートに変身―。高松市番町の県社会福祉総合センターなどで8月11日、「かがわseaマスター」の参加者が男木島の海岸で拾い集めた海ごみを使ってアート作品を作りました。美しい海で暮らす生き物をイメージし、イルカやイカ、恐竜などさまざまな作品が仕上がりました。

高松市の造形作家・四宮龍さんが指導を担当。参加者は、流木やシーグラス、貝殻、浮き玉、発泡スチロール、プラスチックのパイプなどの材料を前にして、何をつくるかを考えました。

流木の形を生かしたイルカづくりでは、色を付けるのに苦労しましたが、貝殻をうまく貼り付けて、おしゃれに仕上げました。白い発泡スチロールと流木を使ったイカは、動いているように見える足がポイント。流木の枝の部分をバランス良く配置し、巻き貝を吸盤に見立てて貼り付けました。

魚などの目やひれ、うろこなどの細かい部分は粘土で作製。接着剤を使ってくっつけました。流木や浮き玉などの大きく重い物は、ネジで留めました。

完成した「海の生き物」を市中央公園に持っていき、四宮さんが設置した灯台のオブジェに飾り付けました。広がる芝生を海にして、灯台を取り囲むように泳いでいるように見えました。これからは美しい海を大切にするため、ごみを見つけたら積極的に拾っていきます。

（太田小5年・荒井美宙さん、付属高松小5年・原淑祥君、檀紙小4年・四宮慶君、多度津小4年・前田ひなたさん、豊浜小3年・藤村旺輝君）

海ごみを利用したアート作品を仕上げる親子

高松市中央公園でアート作品を飾り付ける参加者

組み合わせた流木をネジで固定

自由な発想に感動　造形作家の四宮さん講評

四宮慶さん

子どもたちが自分たちで拾ってきた海ごみを使って自然環境や海の生き物への思いを表現する「海ごみアート」を一緒につくって感じたことは、子どもたちの発想力は、想像していた以上に自由で伸びやかだということです。

男木島の人たちと交流し、島の美しい自然に触れ、世界の海の現状を勉強してきたことをきちんと消化して作品づくりに向き合っています。灯台のオブジェは「未来を担う子どもたちの道しるべになれば」との思いで作製しました。その灯台の回りに飾り付けられた子どもたちの作品はどれも鮮やかに輝いています。

今回の企画を通じて、子どもたちが海を守ることの大切さ、地球上にいる全ての生き物に対して強い関心を持っていることが分かりました。美しい自然を将来に引き継ぐために、少しでも多くの人に活動の内容を知ってもらえるとうれしいです。

新聞づくりに挑戦した25人の児童たち